「今日のソ連邦」一九八五年第18号付録
「今日のソ連邦」昭和60年9月15日号（第28巻・第18号・通巻六三九号）付録

宇宙の平和的開発のために

国連事務総長あてのソ連外相の書簡

尊敬する事務総長閣下

ソ連は「非軍事化の条件下での宇宙空間の平和的開発における国際協力について」の問題を第40回国連総会の議題に入れるよう提案する。

この提案を出すにあたりソ連は、人類がいま選択に直面しているとの立場から出発している。宇宙が地球住民の生活条件改善のためのますます実感できる成果をもたらすことになるか、それとも彼らにとっての新たな死の危険の源泉と化すか。地球人の宇宙時代にふさわしい唯一の理性的選択は、宇宙の軍事化を許さず、平和的活動のためにそれを温存するという方向で行うことができるし、行わなければならない。

この問題は緊急の性格をおびるにいたった。兵器が宇宙に入り込まないうちに、これを解決しなければならない。この危険は日ごとに強まっている。すでに攻撃用宇宙手段をつくるための具体的な開発作業が行われている。このプロセスを停止させなければ、軍拡競争はあらゆる方向でさらに大規模な集中的なものとなり、補足的に新たな物的、知的資源をのみこみ、各国の共同の平和な宇宙活動への道に乗り越えがたい障害をつくり出すであろう。

ソ連は、国連総会があらゆる国、特に宇宙の分野で大きな潜在力をもつ国々に対し、宇宙空間での軍拡競争防止の効果的措置を遅滞なく取り決めるよう改めて強く呼びかけることを提案する。これは平和目的のための宇宙の研究と利用での広範な国際協力の条件をつくるだろう。

ソ連は具体的な措置をひとまとめにして実施するよう提案する。これらの措置は、この分野で発展途上諸国に全面的援助を与えることをも含めて、宇宙を平和的に研究し、宇宙技術をすべての国の幸福のために利用する上での各国の努力の統合を促進するだろう。この全人類の課題の順調な解決は、宇宙空間非軍事化を効果的に保障する合意が成立した場合に可能となるであろうことは、明白である。

宇宙の平和的開発を保障する事業での早急な進歩に役立ちたいとの意図に動かされて、ソ連は文書「非軍事化の条件下での宇宙空間の平和的開発における国際協力の基本方向と原則（ソ連提案）」を国連総会での審議のために提出する。

事務総長閣下、本書簡を国連総会の手続規則に定められた説明書と見なし、添付の文書「非軍事化の条件下での宇宙空間の平和的開発における国際協力の基本方向と原則（ソ連提案）」および決議案とともに、国連総会の公式文書としてご配布下さるようお願いする。

ソ連外相
E・シェワルドナゼ

（プラウダ、一九八五年8月17日号）

非軍事化の条件下での宇宙空間の平和的開発における国際協力の基本方向と原則（ソ連提案）

宇宙への進出とこの無限の空間の実際的利用への移行は、人類の最もすぐれた科学技術上の偉業の一つである。

一九五七年にソ連が世界最初の地球の人工衛星を打ち上げ、一九六一年に世界最初の宇宙飛行士ユーリー・ガガーリンを乗せた宇宙船ボストークが発射されて以来の歴史的に見て短い期間に、宇宙の平和的開発において巨大な飛躍が行われた。

人類は実質的に地球周辺空間に住みつき始めた。軌道上には現在、何百もの衛星があり、国際的なものも含め科学技術専門家の集団が交代で何カ月も勤務するステーションが常時活動している。惑星間学術ステーションが太陽系の奥深くまで進出している。宇宙機器を使って月や金星、火星の系統的な調査が行われている。人類の宇宙の地平はますます広がり、壮大なものとなっている。

しかし現在、宇宙を恐ろしい戦争の危険の源泉に変える可能性が増大している。宇宙配備エレメントを含めた大規模な対ミサイル・システムの創設を含め、宇宙の物体と、宇宙から空中と地上の物体を撃破するための攻撃用宇宙軍備の開発と展開をめざす計画が宣言され、行動がとられている。

宇宙軍事化計画が実施されれば、核の脅威は大幅に強まり、核兵器が地上から姿を消す日が来ることへのいっさいの期待は諸国民から奪われるだろう。しかも軍拡競争は、あらゆる方向で質的に新しい、より一層危険な次元を獲得するだろう。その火中に、人類の平和な発展や、人類の直面する焦眉の問題の解決に役立つはずの莫大な資源が余分に投げ入れられることになろう。

重い不治の病である軍事化は、宇宙活動のすべての分野をおかし、宇宙空間の平和的開発における国際協力の発展にとって克服しがたい障害をつくり出すだろう。

すべての国の国民と政府は、人類の直面している課題の規模と、その解決に対する歴史的責任のすべてを認識する使命を担っている。

人類の幸福のための宇宙の大規模な開発と利用の時代が始まるか、それとも宇宙が人類にとって死の脅威の源泉となるかという、文明発展の転換点が問題となっている。

ソ連は、宇宙軍備を含め、あらゆる軍備の拡張における競争の断固たる反対者である。現在ソ連が宇宙空間の軍事化阻止に払っている努力は、人類の幸福のための宇宙利用の確保をめざすその一貫した、明確な目的をもった政策の継続である。宇宙に最初の道を開いたソ連は早くも一九五八年に、宇宙空間の軍事目的での利用の禁止を盛り込んだ提案を国連に提出した。

その時には宇宙非軍事化問題を抜本的に解決できなかったが、六〇年代と七〇年代には重要な諸条約が締結され、それらが宇宙の軍事利用の可能性を大幅に制限した。それは、多国間の大気圏内、宇宙、水中における核兵器実験禁止条約（一九六三年）、月その他の天体を含む宇宙空間の調査と利用における諸国の活動原則に関する条約（一九六七年）、ソ米間の対ミサイル防衛システム制限条約（一九七二年）その他一連の協定である。

これらの文書は、宇宙空間での諸国の互恵協力の調整における初期の措置に好適な条件をつくり出した。そしていま、兵器が宇宙にもち込まれる道に確実な障壁が築かれるなら、諸国は、すべての国の宇宙活動の結果が破壊ではなく創造に、地球に住むすべての国民の繁栄に役立つ

ために力と資源を統合する可能性を得られよう。

ソ連はそうした協力を支持し、すべての国と国民に対し、宇宙での軍拡競争を防止し、全人類の幸福のための宇宙の平和的な研究と開発に共同で取り組むため全力を尽くすよう提案する。

1　宇宙の非軍事化、つまり攻撃用宇宙軍備の開発（学術研究活動を含む）、実験、展開を諸国が放棄し、平和的な宇宙活動に力を合わせることは、諸国間の相互理解と協力の拡大や人類の物的、知的資源の効果的利用を促進するだろう。それによって科学技術の発展に新たな刺激が与えられ、諸国民の経済的、社会的進歩や、飢えと病気の絶滅、発展途上諸国に対する援助も含めたそれらの国の経済的立ち後れの克服といった切実な問題も含め、人類の直面しているグローバルな問題の解決を促進するために宇宙での成果を用いる真に限りのない見通しが開かれよう。

宇宙研究におけるグローバルな平和的協力が確立され、科学技術情報の交換や協業の簡単な形態から宇宙開発の大規模な課題を解決する上での諸国家がもつ可能性の結集にいたるまでの上昇線に沿って発展するであろう。

この場合、人類は各種用途の宇宙コンプレクスと諸国家の地上の経済との結合という意味での地球周辺空間の工業化、高度の真空と無重量下における新しい素材や工業製品の生産のためにつくられる軌道上の工場の操業といった長期的な目的をも実現できるであろう。天体の資源や太陽のエネルギーを含む宇宙の無限の宝庫を人々のために役立たせることもできよう。

2　宇宙空間の平和的利用における国際協力は、次の基本的な方向において実現できるとソ連は考える。

(1)　月その他の天体を含む宇宙空間の基礎的な学術研究とこれを目的とした惑星間宇宙船の打ち上げ。

(2)　生物学、医学、材料学、天気予報、気象と自然環境の研究、グローバルな通信衛星システムと地質学、農業、海洋開発のためのデータの入手を目的とした遠隔地上観測問題の解決、さらに海上および空中で遭難した人々の捜索、発見、援助への協力といった分野も含む宇宙研究や実験の成果の応用と宇宙機器の利用。

(3)　大型の国際学術軌道ステーション、さらにさまざまな型の有人宇宙船を含む宇宙機器の開発と利用。

3　宇宙空間の平和的開発は、宇宙における軍拡競争の阻止に向けられた以前に締結された諸条約の絶対的順守のもとで、国連憲章から生じる次の全般的諸原則にもとづいて実現されなければならない。

——武力もしくは武力による威嚇の不行使、もっぱら平和的な方法による紛争の解決。

——同権、主権尊重、諸国の内政への不干渉。

——誠実な協力と相互援助、他国の利益のしかるべき考慮。

4　諸国家の協力の確立と実現のために、宇宙空間の非軍事化の条件のもとでの宇宙空間の平和的研究と利用における国際協力のための全世界的な宇宙機関を設立することもできよう。

このような機関は次のような使命を担うであろう。

——互恵の条件のもとで非差別を基盤にしてすべての国が宇宙空間の研究と平和的開発に関連する科学技術上の成果を入手することを保障する。

——宇宙空間の学術研究と宇宙技術の利用における努力と手段の結集に関連した国際プロジェクトを実施する。

——発展途上諸国が宇宙空間の研究と利用に参加し、このような活動の実際的な成果を主権を侵害するようないかなる条件もなしにその必要に応じて経済と社会発展の促進のために利用する上で全面的な援助を与える。

——宇宙空間の平和的利用分野で他の国際諸機関の活動を国際的規模で調整する。

——必要な場合に、宇宙における軍拡競争の防止を目的にすでに締結され、あるいは締結されるであろう諸協定の順守状況に対する監視の実施に協力する。

5　ソ連は、宇宙の非軍事化とこのような協力の基本方向および原則についての合意のもとで宇宙の平和的開発における国際協力問題をあますところなく検討するため、大きな宇宙潜在力をもつ国々も参加する幅広い国際会議を招集することを提案する。

この会議では、宇宙の非軍事化を効果的に保障する合意が達成されるときにこのような機関の実際的な創設に着手することができる点を考慮に入れて、宇宙空間の平和的研究と利用における国際協力のための全世界的な宇宙機関の創設問題も検討されよう。

※　※　※

人々が経験からすでに知っている通り、平和的な宇宙開発は地上の生活の発展と改善のために多くのものをもたらすことができる。ソ連は、人類の共通財産である宇宙が戦争のためではなく、すべての国の国民の平和と安全、経済・社

会進歩のために使われるべきだと確信している。そこにいたる道は、地球上のすべての国の共同の集団的努力の中にある。

ソ連は、善意の立場から、われわれの地球の運命に対する責任を自覚し、すべての国と国民に対してこの歴史的課題の解決に共同で着手するよう呼びかける。ソ連は全体の事業に貢献することをめざして、非軍事化の条件下での宇宙空間の平和的開発・利用における国際協力の基本方向と原則に関する本提案を国際連合の審議に付するものである。

（プラウダ、一九八五年8月17日号）

国連総会決議案「非軍事化の条件下での宇宙空間の平和的開発における国際協力について」

総会は、宇宙空間の開発・利用を平和のもとでの幅広い対等な互恵国際協力の場とすることを保障するとの決意に満ち、

核戦争の危険性の急激な増大につながり、軍備の制限・削減の見通し全体を打ちこわし、宇宙空間の平和的開発での国際協力の発展に乗り越えがたい障害を作るような宇宙空間での軍拡競争を手遅れにならないうちに阻止することの切実な必要性を認識し、

宇宙空間の研究・利用がすべての国の国民の科学技術、経済、社会の進歩をはじめ、開発と経済的立ち後れの克服という課題を含めて人類が直面しているグローバルな問題の解決に最大限効果的に役立つようにすることを保障したいとの意図に従って、

1　すべての国、特に宇宙分野できわめて大きな潜在力をもつ国々に対して、宇宙空間での軍拡競争の防止をめざす効果的措置を講じるためにあらゆる努力を傾注し、それによって平和目的のための宇宙の研究・利用における幅広い国際協力の条件を整えるよう呼びかける。

2　宇宙の非軍事化が効果的に保障される条件下で、宇宙開発の分野で発展途上諸国を援助することも含めて、平和的宇宙活動での諸国の努力を一致、調整、結集し、宇宙の軍拡競争防止のためにすでに締結されているか、あるいはこれから締結されるであろう諸協定の順守状況の必要な監視の実施を促すために世界宇宙機関を設立することが、宇宙の平和的開発とこの分野での国際協力の発展の事業できわめて大きな実際的措置となるであろうとの確信を表明する。

3　非軍事化の条件下での宇宙空間の平和的研究・利用における国際協力の問題を十分に検討し、このような協力の基本方向と原則を調整するために、大きな宇宙潜在力をもつ国々やその他の関心をもつ諸国の参加する国際会議を遅くとも一九八六年中に開催することを決定する。

この会議は、世界宇宙機関の実際的設立には、宇宙空間の非軍事化を効果的に保障する合意が成立して初めて着手できるという点を考慮に入れて、このような機関の設立の問題を検討するであろう。

4　国際会議開催のために宇宙分野で大きな潜在力をもつ国々が参加する、メンバーを制限しない準備委員会を設置する。

5　この準備委員会に対し、活動報告と相応の勧告を第41回国連総会に提出するよう提案する。

6　国際会議の開催に関するあらゆる意見や提案を委員会に伝達するため、一九八六年2月末日までに事務総長に通告するようすべての国に要請する。

7　「宇宙空間の非軍事化と平和的開発の事業での国際協力について」と題する項目を第41回総会の予定議題に含めることを決定する。

（プラウダ、一九八五年8月17日号）